

みずつき

6

2017年 初夏
「水」がテーマの合同短歌集



あめのうずめ
天野うずめ
あめふらしとしひろ
雨虎俊寛
ありむらききょう
有村桔梗
いがらしえみ
五十嵐えみ
いくたあこ
生田亜々子
いづみつ
伊豆みつ
いわたあを
岩田あを
うさうらら
えいじ
泳二
えびちやちよこ
海老茶ちよ子
おおぐろちか
大黒千加
おおにしひとみ
大西ひとみ
おおはしはると
大橋春人
おがわまどこ
小川窓子
おぎもりみほ
秘森美帆
おのびひかる
小野田光
おのりつか
小野立夏
かいざわしゆんいち
貝澤駿一
かいぜん
@kaizen_nagoya
かざえ
かざはし おさモ
風橋平
かずさ
梶紗
かぜのみずと
風野端人
ガッキ
かどわきあつし
門脇篤史
かねこりさ
金子りさ

かれいど
涸れ井戸
きつね
きつね
くどうよしお
工藤吉生
こうのよう
河野遙
こうもろかな
香村かな
こざとモリ
漕戸モリ
ことり
ことり
さくらまりこ
佐倉麻里子
さくらもちこ
桜望子
ささきななこ
佐々木菜々子
しばたあおい
柴田葵
しまださくらこ
嶋田さくらこ
じゃくまめ
雀來豆
しゆんれい
春麗
すざねまい
杉麻衣
スコラブ
スコラブ
すずなりうたねこ
鈴鳴うた猫
せとさやか
瀬戸さやか
たえなかず
たえなかず
タカノリ・タカノ
たかはしりおこ
たかまつさとこ
高松紗都子
たむらはだか
田村穂隆
たんかいわこ
淡海わか
ちくだなずな
筑田なずな
ちごりん
知己凜

ちはらこはぎ
千原こはぎ
chari
chari
つかだ ちづか
塚田千束
つぎた さぐら
月下 椴
とみいえひろこ
とみいえひろこ
なかむらせいじ
中村成志
ながやまりようへい
永山凌平
なぎさらさ
なぎさらさ
ななみ
七波
ならはろもか
榎原もか
にしじゆんこ
西淳子
ぬまじりつたこ
沼尻つた子
ネネネ
ネネネ
のつちえこ
のつちえこ
のにし
のにし
はぎのさとし
萩野聡
はしばみ みずほ
榛 瑞穂
はっか
薄荷。
ひそのゆうこ
ひそのゆうこ
ふえちしずえ
笛地静恵
ふくやまももか
福山桃歌
ふくるまあめ
文車雨
ほさきまどか
穂崎円
まつおかたかくじ
松岡拓司
みかげことほ
深影コトハ
みずぬまさくたろう
水沼朔太郎

みちか
みつしませしん
満島せしん
みなみるか
南瑠夏
みみ
みみ
みやじまいつく
宮嶋いつく
むうこ
むうこ
もぎのゆか
麦野結香
もろたかおる
村田馨
もちづきまりは
望月斤里葉
もりさき あお
杜崎アオ
もりのさと
もりのさと
もりみどり
森緑
やまかみあきえ
山上秋恵
ゆかり
悠佳里
ユミ
ユミ
ルオ
ルオ
れいこ
梨子
わいかわ
丫川

ご参加
いただいた
皆さま
(五十音順 敬称略)

96名による576首の「水」がテーマの合同短歌集

みずつき

6

桜流し

葉桜の頃にはいない君という桜流しの雨音ひびく
言葉も雨も上から降ってくるばかり流れる先の先の先
いつだって去る者のみが美しい春雨の中のしゃんとした背
振り返ることなき背を眺めつつまだ動けない 雨は止まない
夕立の立ち去り方に憧れる そんなにやさしくなんてなれない
雨傘をたたむ おそらく生涯で一度だけする表情をして

Yumi @yumi28282828

ファイヤーフライ

火に飛ぶと碎けば読める劇の名は中洲の川の匂いを連れる
ふるさとやさしい過去と雨と死とああ変わりなく彼の愛した、
詰まりつつ滔々と説く演じ手に頬の光を一瞥見る
舞台裏汗かき動く背がある知ってる分かるだつてわたしは、
甘い水選んで飛んだ虫だから鳴かずに両手叩いて終わり
劇場を後にし数歩立ち止まる着信するい、泣く、ごめん、ねえ、

Ruo @ruo129

ウォーターフィットシュ

水槽の魚の気持ち进行つて婚活パーティー始まるの待つ
深海のごとく静かな会話なりトークタイムの最初の人とは
共通の話題がなくて数秒の沈黙ののち口にする水
漂流を繰り返す身に成り果ててトークタイムは二周目となる
私へと向けた好意はないだろう湿り気のない「ありがとう」には
水色の紙一枚で知らされるカップリングができないことこの

天野うずめ @uzume_no_hijiri

夏の前日

振り向けば出会った時のどしや降りとまるで同じな夏の前日
君がまだ見つめる青いサルビアとくもりガラスをうつしびき雨
バスタブで横たわるけど無邪気さは入浴剤で隠しきれずに
これれもの注意みたいな水菓子を僕へ供する透明な匙さし
青葙あおあしの八幡はちまん堀ほりをめぐる船「また乗ろうね」が果たせぬままに
河岸で今も揺れてるねこじやらし水上バスを待つてたことも

兩虎俊寛 @amefurashi3107

変幻自在 永遠不滅「水」

きんいろのくだから出てきて穴のなかの水の旅には終わりは無いの
これは水明日にはきつと戻るはずむくみか脂肪かそれが問題
永遠を四角の中に閉じこめて流れ続けるエッシャーの水
どうせなら主役はもつと後がいい 余計なお世話とモルダウ拗ねる
ゆるると柔肌包む湯の煙楊貴妃のように抱かれたい
いつの日か忘れたふりして取りに来る置いてけぼりの傘が泣いている

黎子 @SuZuNoNe0190

雨の日に夢去りぬ

戦ったことに対する罰として浴びるにはふさわしい霧雨
Sing in the Rain あなたを感わせるためにすべての言葉を使う
知っているやまない雨がないように死なない俺がいなくてこと
大雨に脳はすっかり洗われて抗いたいことはなにもない
いつかこの屋根を穿つ雨が降るまで弾けない楽器を抱えて眠る
ばらりらと雨が落ちれば鎮魂歌として聴く耳しか持てないよ

Yuki @clonecoyamato

腐刻画

ペットボトルのみづを飲み干すわたくしの目がたどり着く空をあをく
化粧水敏感肌用いっぽんが売れて無印良品は夜
湯に沈みゆつくり百まで唱へるわたしのなかのちひさなわたし
ひそやかに真夜開きたる辞典から瀛といふ字が逃げだしてゐる
未明より降りはじめたる五月雨がひたとしづもる腐刻画の上に
休日の雨にまじつてさびしさのはつかに匂ふ窓を見てゐる

有村桔梗 @chattenoire_k

水無月某日

6月は違うと思った水色に黄色のスカート褒められている
飲む水の気持ちよさから午後に行く時間を待たず座っています
あの店はコーヒー屋さんの角曲がったとこコーヒー飲めない私は知らない
越智さんはとてもいい人お礼までわたしの嫌いなコーヒーを出す
蜃気楼としてまだ見る夢の井戸のあるだあれも知らない私だけの家
できたての書類お持ちいたしましたデザインシーはもう少し先

五十嵐えみ @info_de_emmy

求めても、雨

わかって傘を持たずに出る昼の雨 火のことを思う、濡れながら
色分けができないままに冷えて ただ空の色を映している水
えごの花 雨にそよいで諦めてしまったもののその後を思う
救いなど求めても雨 花の香りを擬態して昼間から眠る
とっちらかって散る泰山木 真夜中に目覚めるほどに焦ったままで
天気雨あるいは日照雨そんなものでも光は光だから、明るい方へ

生田 亜々子 @akoiiz

みづのにはひ

百四十余首に雨降る降らぬありまにえふしふは土のくにの詩
そも雨に天とおなじき名をあててあめふらすあまてらすあめだす
サンダルでびしやびしやと踏む五月雨の道路はてなし一寸煙草屋
鍋うつくし鍋いつばいのミルク煮込みミルク煮込みをひつくり返す
呪ふつもり無かつたならばよく聞け星の暗喩ちや星になれない
みづのにはひする、言葉の間違つてなほさないまま地上に向かふ

伊豆 みづ @izmit_tanka

月光下騎士団に捧ぐ

泣きたけれど泣き得ぬことの悲しさの川は海へと流れ行きたり
百億の薔薇は百億の色を持つ生きゆくための水ひとしづく
砂を食ふごとき暮らしと思ふとき一日かけて海まで行かう
天国も地獄も知らぬ君とみて海はゆつくり形を変へぬ
見ること見つむることは違ふことなにも言はずに君を見てゐる
涼やかなる風を受けをりくれなぬの海にしづかに足を浸して

セリのさと @Wonderful_Maze

シアトルは雨

シアトルは雨の街です 歩いている誰も傘など差していません
防水の効いたアウトドアジャケットのフードをかぶり濡れて歩いた
気が滅入る小雨の下を歩くと片手にホットコーヒーがある
片言で「ミドリハヤサシクナイヨ」と言うコインランドリーの椅子は硬くて
朝八時ぼうつと暗い霧のなかおたがいの手を確かめあった
元彼の姉さんがくれたグリーンの雨傘はもう錆びてしまった

森 緑 @murasaki_48

致命

テール部の缶すこし振れば昨晚のビールが鳴ったぬるい土曜日
雨の日のゆるんだ髪を撫でおさえ夢の中より帰りくるきみ
夏風邪をふくんだばかりの水分が本能として焦がるみずうみ
舌裏についたパブロンすぎたくいつもより多く飲むはるのみず
まひるまの窓あけ放ちするときの漏れだす声に雨は降りつづく
軽を走らせればすぐに海であるこのアパートを『致命』と名付ける

岩田 あを @AwoTnk

矮星日記

水張月はちきれそうな生ごみがキラキラしてる田の字田の字
ただならぬ水匂い来て一年の巡りをおもう亀の産み月
信号機みたいに生えて立ち続けているきみの位牌
滲み出すマスクメロンの細胞膜きみがなくなったのはみずつき
まな板のプレパラートでまだ息をしている細胞むらさき玉葱
水満ちて舗道の矮性ツルバラももうすぐ上昇気流に乗るよ

うさうらら @usaurara

いま海の中

もう水が温む季節となったのに心のロープウェイは停止中
心には絶やすことなく水をやりバラを一輪咲かせてみせる
あの人の体温ほどに風呂の湯を沸かして浸かる いつまで独り
お風呂から出て行くこうにも出られない私の町はいま海の中
きょうの月タマネギみたい見ていると涙が止まらなくなってきた
真夜中の望遠鏡は恋人の涙の色のレンズかなしく

山上 秋恵 @akiemuran

わがふるさと

土手道を歩く大河は悠々と命の水を海へと運ぶ
河口には鳥や魚や人がいて彼らも私も等しく生きる
たくさんの人、物、すべてのみこんだ それでも静かに輝く海だ
雨が降る。田んぼも畑も減ったから水は道路を静かに進む
田んぼから聞こえたかえるの歌は今、アパートからは聞こえてこない
雨よ降れ、黒ではなくただ透明の 悲しい日々をすべて流して

悠 佳里 @yukari_rito

山里の湯

温泉は苦手だけれど稼ぐため冬の途中で山里へ行く
週二回入浴介助をするたびに自問している これはケアなの
アトピーを口実にして回避する見せる情じやうなど欠片もなく
一人きり使うシャワーも温泉水 敢えて呼ぼうか源泉打たせ湯
角かどまん萬に明かりがともし湯は溢れ確かに春は近づいている
よく晴れた四月の初めバスに乗る山里の湯につからぬままで

麦野結香 @yuka_mikut

水無月に

水無月にみず満ちあふれこんこんとわき立つ雲をながめ出でおり
少年の頬をかすめる蛍の灯 玉川上水へと消えてゆく
花くらげ迷兎のごとく行きかいぬきよしの嘴くちばしは沖の彼方か
ひとしづく(時を刻んでいくように) 生理食塩水のしたたり
重力の持つエネルギーの大きさよ水力発電所、異常なし
水音と羽音を残し青鷺は無我の境地へ飛び去ってゆく

村田馨 @kaoru_nurata

水の記憶

羊水の中で(なぜだか羊水というものをすでに知ってる)記憶
突然の雨に真っ赤な自転車で二人乗りして帰った記憶
友達の声が遠くで泡となりそのまま波にのまれる記憶
道端の小さな水たまりの中をヘリコプターが横切る記憶
まどろみの最中に君のくちびるがくれた真水の温度の記憶
一杯のコップの水に溶け込んだ記憶を歌に起こした記憶

泳二 @Eishimada

#MerMay

陸地でも呼吸ができるせつなさを人魚が歌っているクラス替え
気づいたらすでに派閥はできていて金魚すくいのように眺める
人魚には持たざる痛みの靴擦れを庇って20:00はちじのバスに飛び乗る
暴風雨みたいな発作に耐えるため真珠のような薬をもらう
芍薬を五月の薔薇と呼ぶように鬱を五月の人魚と呼ぼう
ゆっくりと息ひとつとして泳ぎだす2年5組が私の海だ

海老茶ちよ子 @c_scarlet510

ペ・ト・リ・コール

上書きを重ねて海はこんなにもかなしみ色で寄り添っている
心臓に微かほが生えてる君という雨の匂いにすこし乱れた
携帯の傘はまああるい殻でありわたしでいられるちいさな居場所
見通せぬ先も隈なく雨が降る 目に映るものがすべてじゃなくて
硝子水がまた胸もとで痛みだす言いかけてやめた泡のいくつが
枯れていたはずだったのに雨音で開いたさみしいところを啄つく

望月万里葉 @pehonoribon

シロップ

どこからか水のきこえるゆうぐれにあなたのうすいガアゼをはがす
えいえんは水を飲みつづける鳥のガラスの嘴くちばしがあおすぎることに
平成のさいごの夏にかがやけるいちごパフェにも地層があつて
いれものとしてのぼくらはながれつく河口がいいね(こは、痛いね
息をすうだけでさみしくなる朝も花をあつめてつくるシロップ
六月は気のながい午後さみどりの万年筆にインクはゆるむ

杜崎アオ @morisaki_ao

君は海、君は波

君の海へ漕ぎ出さん時わたくしは地図も磁石も櫓も持たぬ舟
吾をとらえ優しく強くふるわせるなつかしきかな君が背の波
あなたから滴る汗を受けとめるこの八分の一日はゆく
波音が去りて静寂、今君の腕かたなの中の私だけ見て
ほらごらん空と海とがむかいあう僕とあなたもそうであれたら
果てしなき海を越えゆく蝶もいて私もゆこう虹の向こうへ

大黒千加 @chikafuku

そろそろおふろの時間です

ペンギンはシャワーが嫌いと洗面でアイスがいいと地団駄をふむ
海水のシャワーだからと白くまをなだめすかしてまた白くする
砂浴びはするけど水は嫌いですそっぽを向いた真つ黒カラス
シャワーなら好きなんですよ犬が言うこのシャンプーが嫌いなんです
にやーにやーにやーにや水浴びなんてあり得ない断固はんたい絶対きよひる
バスソルト薔薇の香りはいかがですトドは飲むオペラを歌う

大西ひとみ @hitomin_0

藍より出でて

眉山より見下ろして居る風景の三割ほどは藍より青し
あれは川あれば海って分けながら汽水域って言葉拾う
海でなく川でもなくて塩水に呼吸できない鮎はいるのか
指先に触れる徳島空港よ東京に行く水色がある

韓国語、中国語入り乱れてる日本語はもう泥酔である
風向きに逆らい帰る 川を渡る ポカリスエットを自販機で買う

大橋 春人 @hachix

およめいり

うれしくて降り出しそうなきびしくて雲に隠れて狐の嫁入り
焼酎を水と水で飲むひとに焼酎とテールいっばいのお料理を
招待状に一つ小さなライNSTON ついに妹はお嫁にいく
六月の雨降りやまず姉としてできることはとても少なくて
振袖で受付に立つ水たまり窓から見えてみなりがたく
ブラスースービーと寝息を立てる幼子の小さなブルーに御雷様^{おらいさまあめ}雨

小川 窈子 @madoko_o

傘を忘れて

君が傘忘れちゃうから二人には一本しかない夏の放課後
空港のベンチは水色 少しでも緊張している旅の始まり
放課後の続きのような雨だった 変わってしまう私のための
九龍の港の霧に包まれて過去のことしかないかもしれない
コンビニで傘買ってくよと君が言う大事なものが多くなったね
正しいということすべてガラクタのように思える中国の海

南 瑠夏 @blue_rebels

水を求める

もうここで今すぐ消えてしまいたい世界が雨に隠れる夜更け
唇で手で水脈を探し当て確かめているほらここにある
情愛の海に溺れてしまうからせめて少しは残したい波
浴室で離れられなくなりたくて肩に絡める水掻きの腕
水圧にかき消されてく魂の最後みたいな掠れた声も
何もかも濃すぎると胸焼けしそう事を終えたら冷水を飲む

杵 未 @mimi_4567

海づくりに

海を見に行くための電車を買った仕込みの準備のそのまた手前
すみません、この店でいちばんの海ひとつかふたつみってください
鯛だしのスープをすすりこれが海なんて言うひとすべてつみびと
わたしにも海つくれるよ水中に卵と島国しずめておれば
お支払い方法ですがお客様の大事な涙を海にください
制服は太平洋を漂って真夏日の日本海まで流されました

萩 森美帆 @OgimoriMiho

雨は海にもスープにも

間違えた靴のままゆく舗装路が海になっても終わらない夢
降りそそぐ雨が車窓の膜となり世界を溶かしつつバスはゆく
タワウからうちを眺める気の抜けたソーダ水には残る炭酸
汗つたうわたしの顔はカスケードひとつひとつのほおずきを愛で
たましいの仕切りなくなりみぎひだり小指どうしがふれ合う足湯
スープ掬う君はひだまり窓外の空が黄色く満たされてゆく

小野 田光 @hikarutanka

雨の湖畔で

漁り船去って静かな湖でしじみはなんの夢を見るのか
不快指数振りきった日の夕立を浴びて喜ぶお湯かけ地蔵
血と海と空の境を消す驟雨湖面を走るブロンズのうさぎ
嫁島は篠突く雨に包まれて垣間見さえも許してくれぬ
待ち人が来るも来ないも雨の中青柳楼の燈籠は立つ
ただぼくは雨の湖畔のカフェにいて時間を水に流し続ける

宮 嶋いつく @miyazima_izq

水と季節と

やわらかくしずかな雨が夜満たす弥生の眠りは深く重たく
海からのボラを目当てに鵜が集う運河の春はざわめく水面
今日もまた天地結ぶ糸が降る梅の実と過ごす日々が始まる
こんこんと水湧く池の真つ青に溶けていきたい夏の日の午後
洗いもの水の冷たさ感じつつお湯のスイッチ押さないでいる
一晩中洗面台から水滴の落ちる音する雪国の冬

やう じ @skydew

一時停止

「これ以上近づけません」という印 交差したまま倒れた傘は
リクルートスーツに雨と紫陽花のにおいが残る もういいんだよ
ひたひたと水を注がれたサボテンの優しいだけでは枯れていくだけ
雨よ降れ殺菌されたこの街に孤独な野良犬など居ないから
ぬるま湯のぼちよりぼちよりに閉じてゆく昼間は音を聞きすぎる耳
飲み込んだ言葉が海に還るまで私を包んで真珠のように

深影コトハ @cotoha_mikage

船橋の雨

扇風機にゲリラ豪雨が合わさって止まない音はあるんだの巻
水たまりに足が入って靴の上重たくなるのはいつも僕だね
傘を差しても濡れる足もとだとしても 君には君の強迫観念
僕のための僕の花だよ紫陽花を群れだと思ってる奴は死ぬ
梨汁の濃度を想う。ふなっしー、君ならなんて喚いちゃうかな？
傘袋を傘にゆっくりつけながらコンドームみたいだなんて思う

水沼朔太郎 @audelatawikeshi

恋歌

粉雪が舞い散る中で別れ告げ溢れる涙止まることなく
好きになる痛みを知って涙する残る温もり残酷すぎて
君が言う最後のセリフ優しく心に刺さり涙溢れて
蜃気楼君の影を映し出し涙を流し伸ばす手空虚
シュッと咲く花火を見つめ笑ってた最後になると涙溢れて
降り出した雨にうたれて泣いていた君を想うと涙止まらず

小野立夏 @suzaku2015

バドワイザーの海におぼれて

遠雷にエレクトーンの響く夜 おかあさんはもう帰ってこなかった
水飲み場に虹をつくれる天才と呼ばれて幼かったあのことろ
オルゴールを鳴らして嘘を閉じ込めてジャズシンテーターは別れの合図
ジャズシンテーターは眠りを誘うおかあさんが歌った声でいまも聞こえる
バドワイザーの海におぼれてまどろみし記憶のなかのおかあさんの手
指で水をはじいたときの逡巡にまだ愛なんて求めてしまう

貝澤駿一 @y_xy11

なつがおわらぬ

雲が這う不穏な空に威嚇する観覧車のネオンは消えない
ゆめまぼろし 泡がはじけ散る中で いと健やかに君は眠れり
日が落ちて鏡みたいな水面ゆく溶け落ちそうあなたを乗せて
体温を取り戻す風呂に頸つかり掬う仕草を練習してみる
きみのみみ とびくあまおと おなじおと おなじりずむと してるよやみ
太陽が不揃いである七月に裸足の遊びを君と開くの

みちか @michika_h

われらのからだの半分は水でできてる

混ざり合おうわれらのからだの半分は水なのだからときみはキスする
頸椎をなぞって落ちるきみの汗は海水の味ちよつと懐かしい
みず、みずをください、と言え、だめ、と言おう舌にまとわる唾液を奪う
愛されてわたしのからだの半分に揺蕩うきみのからだの半分
二種類の遺伝子情報混ぜ終えて静かに増える細胞内液
脈々と海から受け継ぎ今まさにわたしの底に満ちる羊水

満島せしん @seshimitsushma

水 特許短歌（三十一音抄録）少数派篇

茶道用建水棚と半東台 蝶着連結 着脱自在
水滴の落下音共鳴反響 水琴窟の音発生器
水菜等凍結乾燥粉砕機ハイオフィルムの形成抑制
鍍金の表面温度を測定す白水煙の影響受けず
切換る逆洗装置連通管海水貯留浸透取水
水特許短歌生成試験仕様三十一音抄録タグ付

@kaizen_nagoya @kaizen_nagoya

ある日の漂流

とりあえず一旦水に流しとく涙のあとに虹もかかると
何もすることがない日の休日に一人飲むのは水割りばかり
味気ない日々をたどってゆらゆらら似て非なるもの水と蜜の味
ぶかぶかと波を漂う夢を見た溺れているのは架空の理想
暑すぎも寒すぎもせず午前二時シャワーを浴びて生まれる私
歩き出せヒレを持たない人魚姫素肌が水を弾いて光る

かわえ @kazae_es

ながれこむ水

旧友と独和辞典のものがたりものがたられしあとに河あり
かもめどり海をみつめるまえに飛び 行方知れずは今日もまぶしき
かそけさや麦のはたけの金色のなかにひかりて穂はゆれいたり
今はもう夕風の時われならず街にひとしく光彩がふる
会いたさに人のもとへと来てあれば緑なり緑なり陸はさみどり
一滴の露のながれのごとくにしてあるいは海へながれこむ水

風橋 平 @Kazahashi_O

つとすくじ

潤して満たすことだけ考えてかつて火星に水があった日
霧が降る町の空気に咳き込んで背中をさする手が懐かしい
雨乞いに狂う老婆よ取りすぎる子どもの頬がその答えです
潤る空「きれい」と仰ぐ君の目を初めに濡らす雨でありたい
「好き」という海があるならひとすくい分けてくださいあなたの手から
全身の七割は水生まれる川の流れを知らないままに

肩紗 @blueregret

雨の世界でふたりきり

新しい淡いピンクの長靴が弾んでふたり彩る雨だ
銀色が雨で光ってびかびかのわたしを迎えるエンジンの音
しばらくはいつも無言でワイパーと心臓同じ速度でぶれる
映画でも観るかと低い声がして右の耳たぶひりひりしてる
不意に手を握ってくるから永遠に渋滞抜け出せなくてもいいよ
長靴は恥ずかしそうにきゅっと鳴きふたりを隠す雨が上がった

福山桃歌 @peachsong_521

群青を行く

図書カード二つに折れば雨が降るあなたと居ると息ができない
「みんな好き」ジュースで湿る唇は誰も好きでは無いのでしょようね
進化する過程で残した潮溜まり涙は魚の頃の思い出
群青を泳ぐ蹠ばかり見え喉が乾くし追いつけないよ
そうかまだあなたのことを愛している晩夏の海で足環を無くして
あめつちの詞譜^{ことば}んじ日は巡る髪を切ったら会いに来てよ

文車雨 @ganymede102

あめふらしの彼方

恋はもう遠いむらさき あめふらしあめふらして何度も吐きだす
身体だけ満たされたって果てはなく打ち上げられたつがいの水母
今日やけに雨やわらかく落ち着いて瞼を閉じてしまっている
みずうみとひらがなかないてまっているあなたのかみをぬらしたかった
いつわりのところをこめた雨だれをなんども弾くんた、嘘、弾けない。
ゆっくりと終わりになって日常の胸の痛みにつもる霧雨

風野 瑞人 @knizuto

見ること

日はまだ長く池を照らしてぎゅっと足首絞られている
川ももうなくてうどんものびている青は緑か紫陽花をつむ
かわいい人表参道で拾ってしまう梅雨もなく夏もなく
明日から何も恐れぬケセラセラケセラケセラ駅を燃やした
眠っている間俺が殺したたぶん誰かの君は女で
息継ぎをうまくできないはつなつのコーラの泡をトイレで吐いた

ガツキ @th0725

シュレディンガーの傘

どこからが雨雲なのかわからない空の下でも無防備だった
ロッカーの遠い密室開くまでシュレディンガーの傘の花柄
曇天に開くてのひら法律が雨になるまであとどれくらい？
紫陽花に香りはなくて暗がりに寄り添いあえば震える睫毛
雨の気配、雨の匂いを遠ざける天井ボードの乾いた白さ
干上がれば点字のようにしるじろといつかひかりはしない 言葉は

穂崎 円 @golden_wheat

うごかない水

汚染水また滲み出していたという 僕等は水に復讐されてる
花散らすへ爆弾雨降るバス停で更新された季節の記憶
迷い込む梅雨の込み降る細き路地待つことにする蝸牛のいっぽ
指先で珠になりゆく漿液のそのはたらきをかんがえている
ぬるき夜を背泳ぎすれば星近くついに宇宙の一部となりぬ
うごかない水は碧をふかくする柳の河に手を差し入れて

松岡 拓司 @senbeiguy

雨の素描

げりらという名を冠された雨粒が窓でつきつきからだを散らす
象型のじょうろの中で少しずつ象の形になってゆく雨
雨の中カエルを真似て歌う かえる、おまえこんなにひとりだったの
かたつむりの眠りを守るかのように翠雨を弾く紫陽花の檻
さよならもまたねも言わず去った君の旅路を思う驟雨に濡れて
どこからが死か 満開の紫陽花に葬送曲のように降る雨

榛 瑞穂 @mainaisuburo

みずたまぼつぽつ

キャベツの葉みずたまぼつぽつ落ちてきてあおむしあわてておうちに帰る
散歩道みずたまぼつぽつしみこんでみどりのかえるはおどけて行進
金魚池みずたまぼつぽつ広がって底の小石は遭難してる
傘の上みずたまぼつぽつ踊って鼻歌のように足音が鳴る
スカートにみずたまぼつぽつ飛んできてわたしも雨のにおいに染まる
街中をみずたまぼつぽつ包みこみ海の中のようににぎやか

薄荷。 @aieohimeco

あまやどりの記憶

僕たちに触れし雨粒ゆくりなく客のをらざるカフェに入りき
雨音は遠く鳴りたりさうたしか重めの愚痴を聞いたのだらう
触れたしと思ひし記憶ストローの袋を破るきみを見てみた
まずいねと囁き合へばきらきらとしば漬けチャーハンひかりを帯びて
あの後はどうしただらう降り止まぬ雨をふたりで眺めてみたか
僕たちの無数の穴を埋めるため雨は世界を鳴らし続ける

門脇篤史 @508atsu

たたえうる

できるだけ小さな舟で街に出るありふれている善意のために
キオスクに三種類ある水のうちいちばん安い水を購入
盗まれる傘はいつでもぼろぼろで雨が雨を叩いている道
水色のポストイットが海になるいつも静かな人のデスクに
図書館の返却ポストに滴ればひとつひとつが銀色の街
たたえうるすべての朝を閉じ込めるうすもいるの点眼液は

金子リナ @knkyokki

Stay my blue

見上げれば月の青さよ如月の氷のように夜は更けゆく
死んだ魚^{うなぎ}みたいな飛行船がゆくコバルトブルーの夜の水底
水無月の夜の微睡み、満天の星から注ぐひかりの雫
流星はひかりのシャワー君となら宇宙の果てまで飛んでゆける
雨粒は窓を流れる星となりこの夜は君のためだけにある
君が流す涙はすべて明日から私の海となりて輝け

ひよのゆうじ @zonostar000

水族譚

しめやかに雨にぬれたるひらがなはあきつ島のやわらかき草
クラウドディア・カルディナーレふともものときだいこんだきしめる
渡し舟もう出ないけど友だちは都会へ流れ三年がすぎ
レモンをしぼりししゃもをかじり語りあかすか友よ水理を
極上のワニタンもとめ月の夜は翡翠の皮をお湯にすべらせ
血液を全身まわす一度だけでもかくそれで一日すぎる

笛地静恵 @mundburg

スローダウン

太陽にブルーハワイの原液を透かしてみれば夏の激情
磯にフジツボが集合意思で書いた SOS を波が隠す
汽水域敵と味方と入り乱れ覇権を競う外来魚たち
網を抜け養殖ウナギ外海へ古い記憶の源流を行く
くるくるとマリンスノーを縫うようにクモヒトデらは深みを泳ぐ
海底の中立帯にチューブフォーム硫化水素を喰らいて踊る

瀬れ井戸 @kareido1111

手を洗う

カフェオレの氷が解ける 愛だつてわからなくなるなんて嫌だよ
雨の日は雨の匂いがする駅の使用禁止のコインロッカー
すれ違う人に睨まれながら行くあなたが忘れた雨傘、大きい
さっきまでいろはすと呼ばれた水がコンクリートに注がれている
真夜中は深海に似てこの街のシーラカンスさながらにわたし
プロローグだった雨音 今はもう空を見ながら待つのはやめた

きつね @001kitsune

きびしい水

水無月の冷蔵庫から取り出した朝の卵のひたすら白
わからないままでどんどん行きなさい雨が何滴あるのかな、とか
自販機のペプシコーラに汗だくの頬で触れたよ青春みたく
半分を残したボトルが落ちているコーラを地面のほうに集めて
見下ろしてみても真つ暗だけれどもきびしい水の音が呼んでいる
石ころが海の底へと落ちてゆくさまを思うよ今日のおわりに

工藤吉生 @mk7911

雨おとのゆくえ

明け方の返信はなく快速のダイヤ乱れて雨の月曜
雨おとの骨董市で語りつくノッティングハムのまやかしの薔薇
真夜中の雨に許され坂道をあがってみる 傘はささない
もうだめになってしまった八月のポトトレイトにずぶ濡れの犬
朝さしたこうもり傘を干したまま織姫星を見る影ふたつ
小笠原付近を進む台風の息に吹かれてビル街の処暑

河野 瑠 @kono_yo_tanka

あかるいちいさな湯船の中で

延滞しつづけたひととのさよならをちゃんと済ませて泣かないでいる
残酷な言葉でゆれる水鏡一度なくしたはずの感情
キスをしてキスしてキスをした変にあかるいちいさな湯船の中で
丁寧に死にぞこなった夜だからわたしのままで雨を見ていた
もぐりこむ悲しみの海ひとりでもいいと思えるくらい静かだ
せかいじゅうの青を知りたい人生の大逆転を成し終えたあと

ネネネ @neee_pp

晴れおんな

ざざ降りね(屋根をつらぬく雨の音) 知ってた?わたし晴れ女なの
知ってたわ(少し薄れてゆく音の) 知らないはずないじゃない 好きよ
抱き合ってシャワーを浴びる(ざざ降りね) 驟雨という語を教えてもらう
ぬばたまの髪弄ぶわたくしの指に食い込むあなたの湿り
朝が来ないからまだ寝てていいという曇り日 あなた、晴れ女なの?
トーストにマーメイドジャムを塗る 朝のニュースがもたらす入梅

のつちえこ @tuchinoco622

深海の魚

黙りこむ癖がぬけない曇天に一時しのぎの夕立ちを待つ
もし河が氾濫しても守りたい小舟が胸の淵に漂う
塞いでも染み出してくる感傷のため通販でさがす水瓶
その海の底に眠っているという大陸に立ち井戸を掘る夢
沈むなら六月だろう深海の魚がそれはそれは綺麗で
無意識に選ぶかなしみ涙でも鱗でもないかたちのピアス

香村かな @komukana

鷗の羽音

瘦せた背に耳を当てればあなたからあなたに向かう鷗の羽音
雨みずが乾いて土はやわらかく前よりすこし狡いわたしは
揺れている水面を誤魔化すためにするちいさな咳がてのひらに熱い
みづいろの鱗が光るとびうをに半袖の腕そつと粟たつ
また夏が近づいてきて痛むほどおなかに溜めるウイルキンソン
ユスリカの群れをくぐると生みずのにおいがふたりの隙間を埋める

漕戸モリ @muramy3939

水玉模様

結露した窓は冷たく外界と私を分かつ砦のようだ
首元に雨粒色のネックレスどれが涙かわからないでしょう
「困ったね分からないね」で空にしてコップの水は永遠みたいだ
毛先から生まれ続ける水玉は午前0時のメトロノーム
水滴で机の上に世界地図 島が繋がりにすぐにパンゲア
電線にちらちら雨粒連なってビーズのようにちらつと光る

のにし @no_nishi

秋にぬた海

コスモスの淡き香りに覆はれし河原をひとり君は歩き
湯の中の茶葉の揺らぎを見つめぬるひととき君と少し笑つて
窓を打つ雨の模様がきれいだとこころ痛めるひととゐる思ふ
どこまでもあなたと思ふ着水ののちの深さを錨ゆきたり
眩しさうに目を覆ひ河からの反照受くるあなたのもとへ
秋にぬた海の記憶をたぐり寄せたぐり寄せても見えぬあをいろ

萩野 聡 @hagitanka

青のカプセルⅡ

「お大事にどうぞ」と青のカプセルの袋を渡され続けて半年
雨に打たれつつ袋を抱いてゆくわたしは変わらずわたしのままで
生きているだけでも許してくれる世界だったら薬も涙もいら
この世界では色を持つことが暗黙のルールで決められている
朝と夜 食後に飲みこむカプセルはときどき苦い後味がする
ただ青にまみれてしまえば生きやすい海なのに息がしづらいわたしは

七波 @magcinapocket

光を孕む

目に見えるものにしたくて約束を紡いだ舌で切手を濡らす
ふりそそぐ水が光を孕むから花は言葉を感じてしまふ
雨ふりの待ち合わせなら鼓動鼓動正しいリズムを思い出してよ
注がれる水をころころ追いかけるあぶくのように笑っていたい
くちづけが落とす光を数えては花の言葉で伝える もっと
浴槽にあなたの記憶が溶け出してぬくもりにもう一度抱かれる

榎原もか @kiharaneke

しずく 涙と雨

雨音にわたしのすべて閉じ込める心のさざなみ瞳のしずく
君の目に光るしずくは不意討ちでそんな卑怯な早い者勝ち
からだから流れるしずく捧ぐけど頬伝うのは普めとらないで
七夕が雨の理由は織姫と私の涙会えぬ言い訳
水無月に雨音包まれ眠りこみ起きてもそこは涙の海で
どしゃ降りの帰り道に聴く雨の歌あんな想い出こんな想い出

ことり @kotori121520

水まんじゅう

いくつかのハンドルネーム捨て去って布巾で絞る大根おろし
窪まない鎖骨は水を溜められず誰ひとり癒せない体だ
泣きながら笑おうとして慣れてない動きに表情筋困ってる
眼球のような水まんじゅうだった白目も味が付いて甘い
霧雨に濡れた髪からシャンプーの匂いがするし今日会いたいよ
巴萨つかないパンを選んで頬張って今すぐロキソニンが飲みたい

佐倉麻里子 @lux_candy

トイレット・ラブ

トイレでもBGMが流れて「高嶺の花子さん」だった夜
(忘れられない恋)人がいなくても水が流れることがあります
「あと一歩前に進め!」の貼り紙で泣いちゃうくらい酔っている俺
音姫のワンマンライブアンコール、アンコールって何回も推す
アライグマ症候群にならないであなたをちゃんとファンにさせるわ
クラシアン助けてトイレの蛇口から愛が溢れてとまらないんだ

西淳子 @jacky244Ray

猫水

人体は7割が水3割を猫で満たして生き延びている
自らをざらつく舌に研ぐように毛繕いする窓辺の猫は
抱き寄せてすぐにぬるりと逃げられてしばらくは気体の猫を抱く
ひろいあげかぶってはす中三の娘の捨てた猫耳ターバン
建売りに六月の陽を分かちあうもう子を産まない猫と私と
猫除けのペットボトルの水に苔 偶像崇拜をうけいれる

沼尻つた子 @numatsuta

みんなに降る慈雨

手のひらを祈りの形にして水をすくって鳴らす水琴窟の音
雨音に混じって君の泣く声が聞こえてしまつて傾ける傘
透明なビニール傘じゃ隠せない君の袖まで濡れていること
淡水魚だから涙を流すぶん塩分過多で死んでゆきます
傘立てに僕のふんの空白が空いてて雨はやまないみたい
僕は種だから大丈夫雨なんか明日花咲くための養分

桜望子 @MaZraMen

生活のなかのみず

ざわめきを消して勝手にこぼれてく思い出たちの蛇口を閉めて
飛び降りる前に幸せ探すべく電子の海にダイブしてみる
ひさかたの天の川より星ひとつおまへを生かすために死ねない
人肌に冷めたお湯から生まれ出づ毎夜ハッピー・パース・トゥー・ミー
淹れ方も全く同じはずなのに今日の紅茶は胸に染みてく
終わったら水に流せる排泄は沈む愚痴よりはるかにきれい

佐々木菜々子 @nanako_tanka

宇宙なんだよ

遠雷はだれかを探すような声おまえだろうかわたしだろうか
ガラス張りのオフィスの電話で謝罪する謝罪するたぶんショーだと思っ
だいたい魚は水に生きていて水がなければ宇宙とおなじ
カロリメイトメイトが欲しい雨が駅前のホームではほろほろ食めば
水を買うその違和感で日々を買うわたしのすきなおにぎりはツナ
地球だって宇宙なんだよこんにちはスターバックスにぎやかに夏

柴田葵 @hellothisaoi

きみは海の底にいる

わたあめが欲しいと泣いた夜のことジンジャーエールに溶けてしまった
どこへでも飛んでゆけると神さまは言うのにきみは海の底にいる
友達とれないわたしも砂浜をはいで波と戯れてもいい
雨を青くするのは心 心から誰にも何も言いたくないな
湖の風が届いて対岸のわたしはどうとう一人ぼっちだ
洞窟に千年万年光る水 千年万年待つということ

嶋田さくひん @sakra00304

誰の涙

Brighton HotelのBの浮き上がる夕ぐれ雨に名がつく前の
六月はひとをこの世に産みし月闇をもたげる花の交友
さみどりのレイクの看板が照らせり傘をたためる者から順に
ときどき・連れて行かれた女のこと引きずられていくぶよぶよの脚
自動ドアの向こうつむきとどまるひと コピー機の前照らされている
糸 今の、誰の涙か哀を啜え掠めていった鴉の唾液

とみいえひろこ @hirokodori

濡れて湘南

触れやすい形を持った罰として掌にだけ雨が止まない
肉を打つ音さまざまに聞かされるこれは盛ったマッコウクジラ
大丈夫腎臓までは濡れないさガードレールがああ心地良い
きさまれて燃やされるもの多いほど徐々に詰まってゆく取水口
新緑が蓄えてゆく奪いゆく葉の一枚に地球が宿る
洗濯を終えてはたけば少しだけ青が濃くなる夏のブラウス

中村成志 @nakam8

石、水、虹

水槽をぼくを見ているきみの眼にゆれるジンベエザメの水玉
河岸から石を投げれば連々と跳ねゆく水の上の葬列
見つけたよ字のないきみの絵葉書をクラシアン青いチラシを
きみの声が夏の驟雨が沖合に虹を呼ぶまで泳ぎつづける
水仙の花に変身するまえに薔薇を渡しておけばよかった
永遠をスプリングラーが塩田に虹を撒くの眺めつづける

雀来豆 @jackbeans2

舟

遠景の雪山ばかり見えないで水の道に気づき給えよ
2センチの厚さを素手じゃ割れなくて午後の日射しも溶かしきれない
冷雨に花の寿命がすこしでも長ければいい井の頭池
つかのまにあそぼう親の無い魚よきみは真夏の池に浮かぶ舟
零れるで始まる台本が読めもせず流されて行く魚あたしは
目標の高速船は3マイル沖から岸に波を蹴立てる

春麗 @diplurlula

還らざる波

還らざる波のさぶしも一度きり msecのパルス流れき
パルス波の入力されねばどこまでも機械の中に水平線伸び
さぬさぬと鉄削りゆく工場の人をらぬ辺り暗き水際
ぬばたまの夜の海へと上がりたる遠花火見ゆ溶接の窓
とめどなく切削液の注がれて生物のやうに姿変はりぬ
夜気は海のやうに満ちくる海の上の絶ゆることなき火より帰りぬ

水山凌平 @urw_mkn

splash, sparkling

あじさいの上で弾ける雨粒を瓶に閉じ込め直送しました
苦手だと言う人もいて好きだというわたしもいるから地球は回る
求める答えより早く早く噴き出したウィルキンソンのペットボトル
70パーセントの水分じゅわじゅわと身体を巡る ねえ聞こえない
泣き疲れ飲み干す炭酸水はぜるように囁く大丈夫だと
きらきらな世界が見たくてこの街にサイダー注いだ 甘い雨だよ

なまむらむ @spicet16g

わたしね、

忘れてたふりして傘に入るひと 今日朝から雨だったのに
深呼吸ふたつしてから飛び込んだきみの背中は懐かしい海
手をつなぎそのまま眠るうたかたの人の望みは深海めいて
雨雲をぶちまけておくいつまでも名前を持たないふたりの日々
シャワーからまつすぐな湯は落ちてきて曲がつてばかりのわたしを叩く
濡れそぼる舗装道路の懐かしい匂い わたしね、ひとりになった

千原こはぎ @kohagi_tw

きょう、木曜日

世界には母の手以外ないように見つめつつけて父は握りぬ
生まれきてそして消えゆく点滴のしずくが刻む きょう、木曜日
天井を透りぬけ空へ消えてゆく母のまなこを繋ぐ父の手
母の目はどこまで遠くへいくのだろう 濁りし水が透きとおりにゆく
不意に照れ「お前が握れ」と母の手を投げようとしても父は離せず
母の手にくちくちづける父 彼を憎みし過去が解かれてゆく

chari @greenchariz

おいで、スコール

濡らすだけ濡らしておいて去るのでしょう(分かっているよ)おいでスコール
通じ合ってしまうのだろうスコールはいつも虚ろなまひるを選ぶ
スコールよあなたが誇る激しさに熱を失う身体だけが
死ぬことはやっぱりこわい 見えていた世界がすべて雨に消される
また濡れたままひとりきり(ばかだよね)スコールあなたは名もうつくしい
太陽はおろかな滴もひからせる哀しいけれど、おいでスコール

杉谷麻衣 @kazanagistreet

イス・シー

水中に水滴をみるクロールの手触りであれ触れるものみな
泳ぐのは生き急ぐように見えていて生まれる前もこんな競争
若鮎というスイミングクラブの子はこの街にまた帰るだろうか
400を終えてどれだけ長いかとイアン・ソープの暮らしを思う
思い出しますか誰かの顔だとか息継ぎのない短距離泳で
水に還るべきであるなら最期には泳ぎに行くと行って、ゆこうか

スコラブ @score_scape

ひとつの舟

気がつけばひとつの舟に乗り合はせ肩を寄せ合ふやうなふたりだ
せせらぎに目蓋を閉じて青々と落ちる水音ばかりがこわい
湖の青さと深度 菩提樹は何度も幹を傷つけられた
花火ひとつ呑み込んでみる喉は焼け約束なんて擦り切れてしまふ
雨音は扉を叩く音に似てゆつくりくずれば始める節度
摩耗した手紙は丸くなめらかにいつか岸辺へ打ち上げられて

塚田千束 @a-oneko

君に見せたい

土砂を打つ雨やみて土砂に穿たれし跡のこる暮れがた
水を抱き空抱きつつ泳ぎゆく水と空気を内に保ちて
おたがいを見ぬまま育ちしんでゆく双子のような肺、腎臓、卵巣
二百万の卵を抱きて生まれしもひとつも成さず一世を終えん
洗い髪豊かに新湯含むとき息づくごとし君に見せたい
湿りけをおびたる梅雨の風うけて傘はしだいに雲になり初む

月下 桜 @tukishitan

水色の恋

レモン水作ってくれた母のこと淡い思い出として話す父
土砂降りのような恋でした私だけ濡れてあなたは傘さし逃げた
最後の恋だと信じてたそれなのに 涙の代わりに飲む水道水
「十年後また会おう」なんて約束を今も忘れずサイダーを零す
水たまりに映る木漏れ日 乱反射わたしたちのこと追いかけてくる
紫陽花を優しく濡らす水滴を雨蛙がポタリ落としてく

鈴鳴うた猫 @itachicat

君との間に湖がある

湖の向こうに君がいるというちよつと不確かな便りが届く
さざ波はここからそこに届くよねそこからここへも届いてるから
向こう側君もこつちを見るかな泳いで行くには遠すぎる距離
これ以上近づけないし近づかない安全なのかおくびょうなのか
ひとりではわからないこと多すぎて僕は湖に惑わされてる
湖の岸辺に沿って歩き出す初めからわかりきってた方法

瀬戸さやか @st_syk

雨天結婚

傘がない、ひとつしかない 六月に結婚すべき理由の青さ
梅雨寒に娶られてゆくあのひとの温度がいつか上がりますよう
人生の夏まえ誰もが立ち止まる 雨に、静寂に、終わる不安に
ウエディングマーチが聞こえぬロッカーのiPhoneがまた受信、送り梅雨
甘く痛む男にミントシロップをどれだけ足せばすんとするのか
必ずや結婚しようこの雨が そう告げたひととたぶん永遠

たえなかず @suzusuzu2009

水の循環を義務教育で学んだ者たちへ

しりとりをしたら雨が降ってきて君と手を繋いで行くルノアール
ブレンドでまどろみながらまだ続くルール(工業地帯の方ね)
雨音に飽きてぼくらはどこ行こうカラオケもしくはレイ・リュミエール
DVDケースのあらずし読みながらこつそりぼくらはるを探してる
いつの間に止んでて空は空色で残された雨は土に滴る
反射する水たまりへと跳び込めば繋がって空から落ちる

タカノリ・タカノ @nigaiChocolate

お腹が痛い

大きめの水たまりにはゴミが浮き三日月が出るのを待っている
ゴウゴウ豪雨の音がお腹まで響いてともお腹が痛い
自転車のタイヤが石を踏んだとき胸のあたりが痛いと思う
一年も経ったらみんなして俺を豪雨に放り出すんでしょね
悪いのは俺だから今日のミーティング出たくねえなあ 台風来ねえなあ
腹痛のわけを話せば甘えだと言われて、もう、水飴になりたい

田村穂隆 @Da_Ho_Ra

循環する

ドタキャンを三回されて目尻から積乱雲を産み出している
飲み込んだ涙専用貯水槽の老朽具合が懸念されます
じわりじわり滲む雪を捨てるのはもったいないから色でも付けよう
《水色》に限りなどない映すもの次第で海にも虹にも変わる
雷とゲリラ豪雨の過ぎ去れば若葉きらきら喜びの色
循環した涙の雨はしあわせの小さな苗を潤せるから

淡海わこ @omiwako_

逃避行

いつも眠いフカサワさんの爪先をつつむプールになるって決めた
太陽が一番近い惑星は水星 歌うように走り出す
水のように生きていきたいいつだってなるようにしかならないものよ
右利きにやさしい世界に従って海に一番近い改札
水性の「よくできました」が消えていくふたり手のひら重ねて笑う
この夏の思い出 プールサイドではわからないことたくさんあった

たかはしりおこ @nashkr

夏の意思

はつなつのあさい眠りの遠浅にねころぶような五時のあかるみ
梅雨入りは秒読みでしようささやかな未来のことを語る予報士
水菓くずすスプーンの先にクレバスがあつて心を決めかねている
浜辺には角をなくした硝子たち波にはぐれた海月のこども
気にしないあなたは強いさみだれのひかりの粒も味方につけて
点描を終えて激しくなる雨に濡れて歩いたのも夏の意思

高松紗都子 @saticotti

100円の自販機

全部100円の自販機 10円の釣り銭切れで何も買えない
ネクターはあまいのみもの何気なく君が渡したときの指先
ただ水を求めるだけがこんなにも無敵だ君と深夜の自販機
雨の中ぼんやりした発光体の取り出し口は黒々として
なんだってよかった訳じゃないんだよ こんな時だけ当たるルーレット
100円を入れこむ度に思い出す お茶はきちんと淹れたあなたを

筑田なずな @isago56

雨のとなりにある景色

玄関の隅でちょこんと座ってる長靴空梅雨少し寂しげ
美しく円を描いた水玉をはじいた朝にはじける想い
雨あがり緑の匂いに包まれて庭に無数の渦巻きが咲く
水をける足元だけを見つめてた傘を差さずに霧雨のなか
うっすらと雨のよるいをまといつつ新幹線は駆け抜けていく
ぬかるんだあぜ道抜けたその先にあじさい寺はレースをまとう

知巳 凜 @Chikorin7